

## 2024 年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：後藤 夏粋

所属：中国語学科 2 年次

現地の教師たちは非常に親切でフレンドリーな方達であったため、毎授業発言がしやすく、分からないところがあった時も気軽に質問できる環境だった。日常生活で使う場面が多々ありそんな単語や文法を毎授業で学んでいたの、授業後に外出し、現地の方々とコミュニケーションをとるときだったりお店に入ったりした際に「この単語(または文法)さっき授業で習った内容だ!」と、その日のうちに街中で復習できることがとても多かった。

中国は日本に比べかなりタクシーの値段が安いのでこの 3 週間はタクシーを頻繁に利用していた。タクシーの運転手さんと会話が弾むことも多々あった。一度日本語が少しだけ通じる運転手さんに会った。趣味で日本語を勉強しているらしく、私たちが中国語を学びに来た学生であることを伝えると、運転手さんは私たちに中国語を教え、私たちは運転手さんに日本語を教えるという移動時間になった。とても有意義な時間であり勉強にもなった。

やはり現地の方とたくさん会話をしたことで語学力が向上したと思う。北京の人々はフレンドリーな人が多かったため、言葉を交わす機会がたくさんあり、勉強になった。

インターンシップで、18 年間仕事で中国に住んでいる日本人のイオンモールの責任者の方への質問会があった。学生から「他言語を学ぶことは就活で有利になるのか」という質問が出た際に、「語学力よりもあなたが何をしたいかが 1 番大事。語学力はツールである。あなたがしたいことが見つかった時、あなたのしたいことをツールとして手助けしてくれるのが言語である。」と回答していた。自分自身の言語への考え方が変わった瞬間だった。自分が卒業後やりたいことが決まった時にツールとして中国語が出せるようにもっともっと中国語の習得に励もうと思う。